



こころに残る景観資源発掘プロジェクト

こころに残る まち景観

岸和田市



目次

- P.02 こころに残るまち景観マップ
- P.03 こころに残るまち景観
- P.08 こころに残るまち景観応募者エピソード集
- P.09 こころに残る景観を巡る旅～ちきちきwalk～
- P.10 Landscape resources remaining in the mind
- P.11 こころに残る景観資源冊子のご紹介
- P.12 プロジェクトの系譜



ここに残るまち景観マップ



【ここに残るまち景観】

- 01_時を越えて（春木中学校の赤レンガ塀）
- 02_春木西福寺
- 03_北町 寺町筋
- 04_中町 城跡の名残り
- 05_本町のまちなみ
- 06_岸城町 マンサード長屋
- 07_宮本町 城見橋への道
- 08_元旦の朝日に映える岸和田城
- 09_輝く岸和田城
- 10_岸城町 十六軒長屋
- 11_蛸地蔵伝説を伝えるレトロ建築（南海蛸地蔵駅）
- 12_久米田池の夏祭り
- 13_泉光寺と桜
- 14_日没前（山直南地区）
- 15_積川町 元本街道のまちなみ
- 16_阿間河滝町 長屋門坂
- 17_夕暮れの北阪
- 18_神於寺の参道
- 19_白原峠の星祭り（東葛城にて）

※ ここに残る景観資源の見学にお越しの際は公共交通などをご利用下さい。
また、周辺の迷惑にならないよう管理者の指示に従うなどマナーを持って来訪して下さい。

ここに残るまち景観

01 時を越えて(春木中学校の赤レンガ塀)

春木中学校には、春木地区の歴史を今に伝える赤レンガ塀が今も残り、印象深いまち景観である。百メートル余り続く赤レンガ塀は、大正時代に建造され、泉州の経済を支えた産業遺産として興味深いものである。卒業生や在校生を見守り続けている春木地区のシンボルとして、これからも受け継いでいってほしい。



松風町



現在、赤レンガ塀はその大部分が撤去されましたが、保全されている一部分から往時の姿を想像し、皆さんのここに残る思い出とともに未来に紡いで頂きたいと思います。

02 春木西福寺

西福寺は、紀州街道から境内へと続く参道の松並木が美しい特徴的なまち景観である。

時代の経過とともに周辺の街並みが変わっても、往時を偲ばせる参道は地域の人々を温かく迎えてくれる。

今後も、春木の人々の思いを紡ぎ、いつまでも地域のシンボルとして親しまれる景観であり続けることを願いたい。



春木本町



03 北町 寺町筋

寺町筋は、寺院が立ち並ぶ歴史の重厚さを感じるまち景観である。修景整備されたまちなみは、訪れる人々を魅了し、ひと時の安らぎをもたらすことだろう。寺町の成り立ちや寺院の由緒に思いを馳せながら、まち歩きを楽しんでもらいたい。



北町



04 中町 城跡の名残り

公園で遊ぶ子供たちの傍らには、岸和田城の防潮堤として築かれたとされる石垣の一部が残されており、今に城郭の往時の姿を伝えているまち景観である。まちの姿は日々変わっていくが、古の人々の営みを示す生き証人としてこれからも守り続けてもらいたい。



中町



ここに残るまち景観

05 本町のまちなみ

本町の紀州街道沿いは、城下町の風情が今も残り岸和田を象徴するまち景観である。往時の町家や「本町のまちづくりを考える会」の修景によりまちなみが保全され、本町への愛着が感じられる。郷土への誇りと愛着が込められたこの歴史的なまちなみを、いつまでも継承してもらいたい。



本町



06 岸城町 マンサード長屋

人々の暮らしが息づくマンサード長屋は、子どもの好奇心をくすぐる印象的なまち景観である。大正時代に建築された洋風長屋は、往時の息遣いと住民の愛着が感じられ、地域の景観的シンボルとなっている。周辺には、様々な時代様式の建造物が数多く残されており、岸和田の歴史の歩みを知るうえでも貴重な存在である。



岸城町



07 宮本町 城見橋への道

古の城郭を今に伝える城見橋へと続くまちなみの一角に、町家と漆喰の蔵が印象的なまち景観を見ることができる。道路を挟んで立ち並ぶ建造物は、歴史の趣を感じさせつつ、景観への配慮を周辺にもたらしている。城下町ならではの魅力を効果的に伝える視点場として、これからも大切に保全願いたい。



宮本町



08 元旦の朝日に映える岸和田城

岸和田のシンボルといえる岸和田城は、国籍を問わず歴史の風情を共感できるまち景観である。元旦の朝日を受けて浮かびあがる天守のシルエットは神々しく、また、これからも人々の思い出に刻まれ続けることだろう。岸和田市民に愛され、ここに残る岸和田城の魅力を、多くの海外の人々にも知ってもらいたい。



岸城町



ここに残るまち景観

09 輝く岸和田城

岸和田城は、四季折々の趣があり、これまでもここに残る景観資源として指定されているなど市民にもっとも親しまれている景観資源である。ライトアップされた天守のシルエットが暗闇に浮かび上がるまち景観は、昼間とは違った印象を受ける。今後も岸和田のシンボルとして多くの市民に愛されつづけ、これまでと違った岸和田城の景観が発掘されることを期待したい。



岸城町



10 岸城町 十六軒長屋

大正時代に建造された十六軒長屋は、人々の営みが垣間見える印象的なまち景観である。百数十メートルに及ぶ長屋が連なるまちなみはまさに圧巻であり、この景観が今日まで保全されていることに敬意を表したい。これからも息づかいを感じさせるかけがえのないまちなみを守り続けてもらいたい。



岸城町



11 蛸地蔵伝説を伝えるレトロ建築(南海蛸地蔵駅)

蛸地蔵伝説を今に伝えるステンドグラスが装飾された南海蛸地蔵駅は、歴史的建造物が多く残る地域のまち景観を象徴する建物である。商店街の街並みをリードし、大正時代から現存する建築物として貴重な存在となっている。岸和田城から続く閑静な住宅街や蛸地蔵商店街のシンボルとしてこれからも大切に維持願いたい。



岸城町

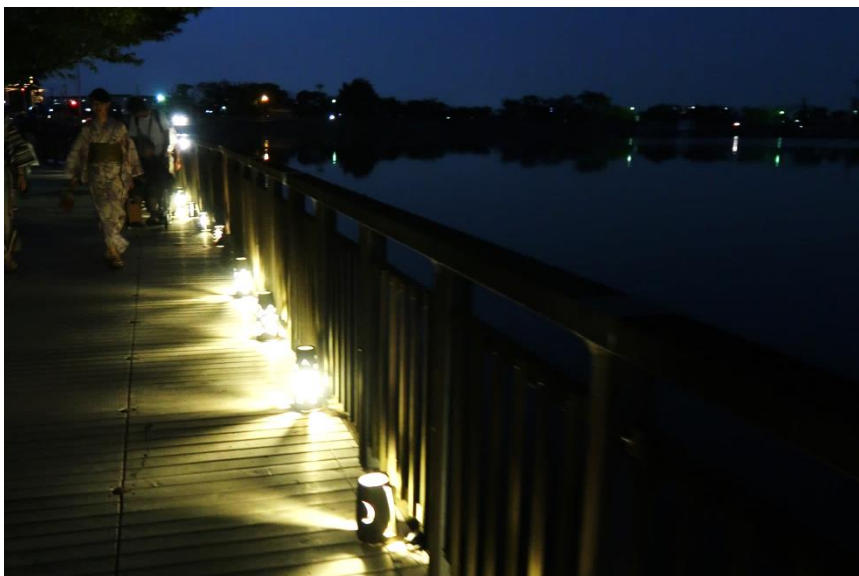


12 久米田池の夏祭り

地域の人々により行われる久米田池の夏祭りは、笑顔あふれる夏の風物詩として賑わいと郷土愛を感じるまち景観である。日中から様々な催しが始まり、遊歩道に並べられた手作りの灯籠に火が灯されるころ、花火が水面を彩り、訪れた人々の拍手や歓声が鳴り響く光景は人々の心に深く刻まれることだろう。久米田池は、これからも様々な人々の関わりや営みにより守り継がれ、愛着ある地域のシンボルとして次世代に紡いでもらいたい景観資源である。



池尻町



ここに残るまち景観

13 泉光寺と桜

岸和田藩主の菩提寺として高名な泉光寺は、四季折々の趣と歴史の重厚さを感じるまち景観である。桜や紅葉とのコントラストが美しい山門と、歴代藩主の五輪塔が整然と並ぶ風景が印象的である。これからも市民の誇りとしてこの景観を受け継ぎ、また、多くの人々に訪れてもらいたい。



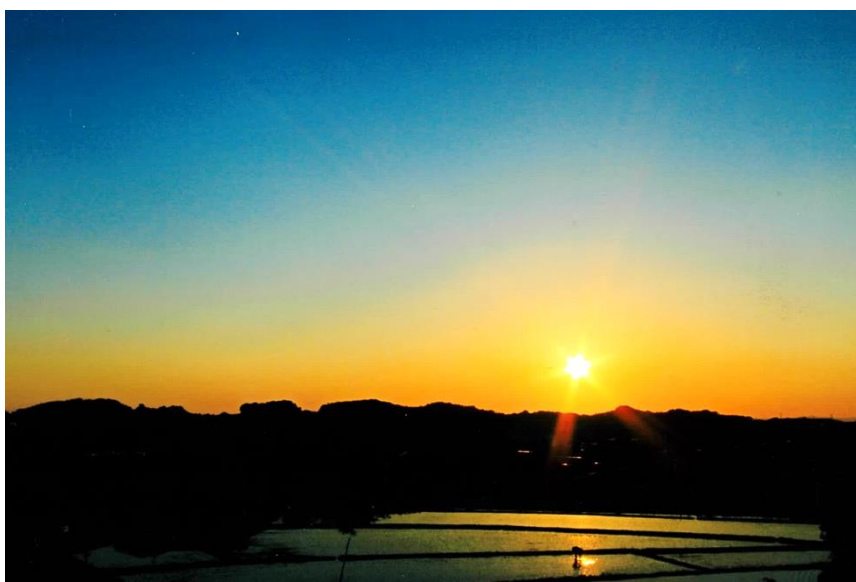
門前町



14 日没前（山直南校区）

丘の上から見渡す山並みや集落から人々の生業が感じられ、夕日と水田のコントラストが印象的なまち景観である。昼間に見える街並みが、日没とともに影となり、稜線のシルエットが美しいまち景観を眺望できる視点場であった。今後も地域の暮らしや営みが魅力的に伝わるまち景観として維持してもらいたい。

非公開



15 積川町 元本街道のまちなみ

時を経て受け継がれてきた土塀と門長屋は、酒蔵として賑わっていた往時を偲ばせるまち景観である。これまでもここに残る景観資源として指定されており、それぞれの景観要素が織り成す風情は評価されるべきものである。積み重ねられた歴史の重厚さと静寂のなかで、せせらぎが醸し出すまち景観を、これからも守り続けてもらいたい。



積川町



16 阿間河滝町 長屋門坂

坂のあるまちとして知られる阿間河滝町を代表する長屋門は、自然の地形を活かしたまちなみを象徴するまち景観である。人々の暮らしが息づくまちなみは、郷土への愛着と誇りが感じられ、敬意を抱かずにはいられない。石垣と階段状に建てられた長屋門、伝統的なしころ建て母屋など、地域のアイデンティティをこれからも守り続けてもらいたい。



阿間河滝町



ここに残るまち景観

17 夕暮れの北阪

知る人が少ないであろう北阪八幡宮は、その境内から望む大阪湾への眺望が印象的なまち景観である。参道を彩る植栽や境内地は、綺麗に管理されており北阪の人々の親しみと愛情が感じられる。地域の人々に守り育まれたこの風景を、多くの人々に知っていただきたい。



北阪町

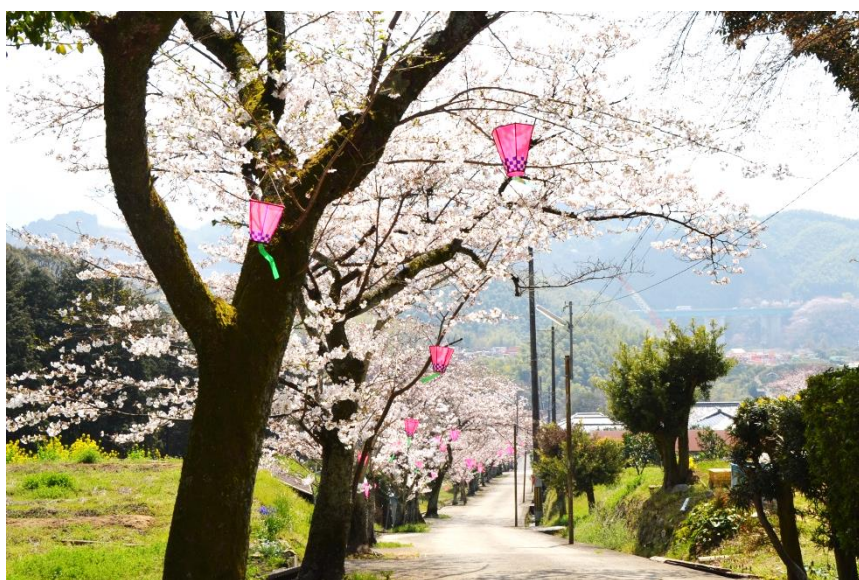


18 神於寺の参道

古くから、人々に信仰の対象として崇められている神於山の南麓にある神於寺への参道は、桜をはじめとして四季の趣きを感じる事が出来るまち景観である。参道を登ると町並みや和泉葛城山系を一望できる眺望が広がり、由緒ある寺院とともに訪れた人々の印象に残ることだろう。これからも地域とともに悠久の時を刻みつづける景観を守り継いでもらいたい。



神於町



19 白原峠の星祭り（東葛城にて）

集落を縦断する坂の頂上部にある広場では、地域の人々が七夕の日に色とりどりの短冊に願いを込め、笹を飾り付ける。白原峠と名付けられたこの広場には、昔から人々の営みが見られ、往時の賑わいを偲ばせる。季節に応じた取組に地域のつながりが感じられ、いつまでも継承してもらいたいまち景観である。



上白原町



ここに残る景観資源の場所は
岸和田市ホームページから確認できます。

【検索方法】

市HPから「祭都Naviきしわだ」をクリック



「景観・公園情報マップ」を選択

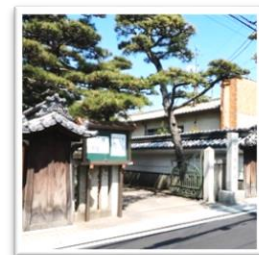


「景観マップ」を選択してご覧ください



1. 時を越えて
(春木中学校の
赤レンガ堀)

◆春木中学校に数百メートルに及ぶ赤レンガの堀があります。その昔、東洋のマンチェスターと言われた大阪の一大工業地帯の一角を担った岸和田の紡績工場跡の名残りが今も感じられます。百年を超える時の流れとともに通学する児童や地域の方々をこれからも見守り続けてくれることでしょう。(応募者：51歳／男性)



2. 春木西福寺

◆室町時代に創建されたと伝わる西福寺。紀州街道から石畳と松が佇む参道を進み山門を抜ければ大きな楠と本堂が目の前に現れ、たちまち本寺の歴史を感じる事ができる。春木地区のまち景観を象徴するものである。(応募者：48歳／男性)



3. 北町 寺町筋

◆岸和田駅から商店街を通過して脇道に入ると、由緒あるお寺が連なる寺町筋と言われるまちなみに出会いました。明智光秀の肖像画で有名な本徳寺など市街地とは思えない静寂と歴史を感じる佇まいが印象的な景観です。また、道路には隠し文字がありますので探して見て下さい。(応募者：45歳／女性)

◆台風一過の朝の様子。パンチのある寺町らしいスカイラインが好きです。未永く残してほしい、岸和田の名所です。(応募者：71歳／男性)



4. 中町
城跡の名残り

◆浜地区の中町に残る石垣。その昔ここから浜側は海岸線だったそう。今では家が立ち並び違和感さえ感じるが、当時の町並みを今に伝えるまち景観だと感じました。(応募者：48歳／男性)



5. 本町のまちなみ

◆歴史を感じる町家建築が建ち並ぶ本町の紀州街道は、岸和田らしさを印象づけるまち景観だと思います。岸和田祭礼のときも良いですが、日常の静寂な雰囲気があるところに残るお勧めの景観です。(応募者：51歳／男性)



6. 岸城町
マンサード長屋

◆100年近くたって改装もみられますが、当時の高級洋風長屋の様子がみられます。子供の頃中へ入れてもらうのが楽しみでした。施行者は岸和田高校旧校舎(RC)や十六軒長屋も請負った中筋組との事。(応募者：71歳／男性)



7. 宮本町
城見橋への道

◆城見橋を渡って岸和田駅へ向かうときは、必ずこの道を通ります。帰途もこの道です。岸和田に住む誇りを感じる道ともいえます。(応募者：71歳／男性)



8. 元旦の朝日に
映える岸和田城

◆平成31年1月1日。7時41分。朝日に照らされた岸和田城。20年間、(公財)大阪府国際交流財団のホームステイ担当として登録している。これまで多くの外国人の方が我が家に来た。必ず案内するのはここ「岸和田城」と「だんじり会館」。とてもよろこばれている(^ ^)岸城神社を出て左手に岸和田高校がある。その近くのお堀から撮影した。朝日に映えるお城はなかなか風情があり神々しく感じられ、思わずシャッターを切った。(応募者：56歳／女性)



9. 輝く岸和田城

◆2018.6.13 がんこで食事して出てくると岸和田城の空がきれいだった。午後8時ごろです。(応募者：77歳／男性)



10. 岸城町
十六軒長屋

◆蛸地藏商店街から一本入ったところに十六軒長屋が連なる町並みがあります。大正時代に建てられた長屋住宅は今も大切に使用されており、地域の歴史と趣きを感じるまち景観だと思います。(応募者：45歳／女性)

◆この長屋は大正時代からあり、今も現役でこの場所を見守り続けているそうです。ずっと岸和田市に住んでいましたが知りませんでした。市民より観光で岸和田市に来られる方のほうがよく知っているのではないのでしょうか。長屋がずらっと並びこの場所は実際見てみると圧巻です。(応募者：23歳／女性)

◆60年前城内小学校への通学路のひとつでした。同級生も何人か住んでいましたが皆どうしているのかな？全長120M、大正11年(1922)に建てられた質の高い和風長屋は城内に残る価値ある風景といえるでしょう。(応募者：71歳／男性)



11. 蛸地藏伝説を
伝えるレトロ建築
(南海蛸地藏駅)

◆蛸地藏伝説が描かれたステンドグラスが設置された駅舎は大正時代に建てられた貴重なレトロ建築であり、地域を象徴するまち景観だと感じました。(応募者：48歳／男性)

ここに残るまち景観 応募者エピソード集



12. 久米田池の
夏祭り

◆久米田池の風物詩となっている夏祭り。多くの人々が楽しみにしている打ち上げ花火が祭のフィナーレ。夕暮れ時に湖面を見ながら遊歩道を散策するのもお勧めです。（応募者：48歳／男性）



13. 泉光寺と桜

◆岸和田藩主岡部氏の菩提寺として有名な泉光寺。歴代藩主の五輪塔や、門前を彩る桜が美しく咲き誇る印象深い場所です。（応募者：56歳／女性）



14. 日没前
(山直南校区)

◆田植えの頃お天気の良い日は最高のロケーションです。ずっとこの景観は失われずに続いてほしいと願っております。（応募者：64歳／女性）



15. 積川町
元本街道の
まちなみ

◆積川神社から少し海側に行き、細い路地を左に入ると元信貴本家酒造の工場と本宅があった通りが出る。狭い道だが昔はここが本街道だったそうです。今にも杜氏さんたちの声が聞こえてきそうな佇まいです。ここで使われていた酒造の際に米を蒸した「甑釜（こしががま）」という大きな大きな鉄の鍋が岸和田城の城門に入ってすぐのところに展示されています。当時のままの長く続く塀とともに、酒造りの盛んだったころがしのばれます。（応募者：63歳／女性）



16. 阿間河港町
長屋門坂

◆一見武家屋敷街のような長屋門の街並み。道路の舗装を工夫すれば時代劇のロケ地として売り出せそうですが、岸和田市には他にも積川旧牛滝道などロケ地になりそうな道が沢山ありますね。（応募者：71歳／男性）



17. 夕暮れの北阪

◆あまり知られていない神社だと思いますが、すごく景色がよく夜景も見ることができるので自分だけのお気に入りの場所です。また、どういう経緯でこの神社が建てられたのか知りたいです。そして近くには同じく景色のいい北阪町観光農場があり秋から冬にかけてみかん狩りをするので少しでもPRになれば嬉しいです。（応募者：21歳／男性）



18. 神於寺の参道

◆神於寺に至る参道は坂道となっているため歩くと息が切れる。しかし、桜が咲く頃はその参道を見事に彩り辛い参道も美しい景観となる。そして境内からの眺望は美しくまた来たいと思わせてくれる。（応募者：48歳／男性）

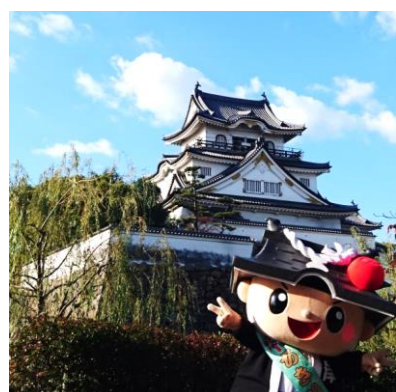


19. 白原峠の星祭り
(東薨城にて)

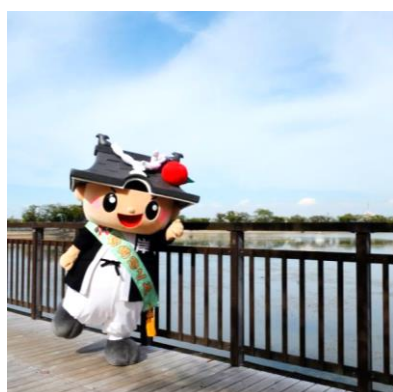
◆毎年の星祭り（七夕）には、岸和田市上白原町の峠頂上付近にある個人宅の横にある広場に於いて、同町から通学する生徒並びに来賓として、岸和田警察署長、学校長、毎朝の指導にあたる駐在所員、学童の見守隊の人々を呼び、世界・日本・岸和田市のこどもたちの安全や安心・まちの人々の幸せを願いの糸に託し、星祭りを行います。筆者もそのひとりとして招待を受け参加します。ここに残る景観としては是非推薦します。「学童の見守隊の息白し」「こどもらの安全いのる星祭り」赤心子（応募者：78歳／男性）

ここに残る景観を巡る旅 ～ちきちきWalk～

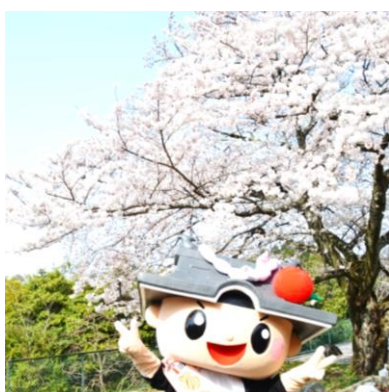
ちきりくんのここに残る景観を巡る旅のご紹介



岸和田城



久米田池遊歩道



塔原町・サクラ



ここに残る景観を
巡る旅はこちら



ちきりくんが、ここに残る景観資源発掘プロジェクトの指定資源を巡り、市内の景観の魅力を伝えるブログです。是非、ご覧ください。

ここに残る景観を巡る旅

検索

Landscape resources remaining in the mind

As we call “Landscape Decade, Scenery Century, and Climate Millennium”, it would be important to work on creating the landscape which leads to our future assuming that our daily activities would someday thrive in the place as its climate as time goes by.

「景観十年・風景百年・風土千年」と言われるように、私たちの日々の営みが、いつか時を経て、風土としてその土地に息づくことを想定しながら、「未来につなぐ」景観形成に取り組むことが重要だと考えられます

So far, we have been discovering the landscape resources about “Trees” which have been cherished by local people who are dedicated to great landscape creations,” Roads” which is the common space of society, and “Watersides” which is the source of our daily activities.

We have been also accumulating and sharing the information.

これまで、優れた景観形成に寄与する地域の人々に大切に守られてきた「樹木」、社会の共有空間である「みち」、日々の営みの源である「水辺」について景観資源を発掘し、その情報を蓄積、共有に努めています

[Project for discovering the landscape resources remaining in the mind]

To realize the basic goal of Kishiwada city’s landscape formation that is to create “Individual comfortable environmental city”, which rich natural environments and historical environments weave, it is necessary for citizens, business owners and the government to create, save, develop and connect good landscapes for the next generation through their mutual understandings.

Therefor, since 2012, we have been implementing” The project for discovering the landscape resources remaining in the mind” to create effects such as developing the local attractiveness, fostering the attachment and pride for the local community and contributing to the improvement of the local value by discovering the core resource of the local landscape, and by accumulating and sharing the information.

[ここに残る景観資源発掘プロジェクト]

岸和田市の景観形成の基本目標である『豊かな自然環境と歴史的環境が織り成す「個性的快適環境都市」の創生』の実現には、市民、事業者、行政が相互理解を図りながら、優れた景観をつくり、まもり、はぐくみ、次の世代へつないでいく必要があります。

そのため、地域の景観の核となる資源を発掘し、その情報を蓄積、共有により地域の魅力を高め、郷土への愛着や誇りの醸成と、地域価値の向上に寄与するなどの効果を創出するために「ここに残る景観資源発掘プロジェクト」を2012年より実施しています。

ここに残る景観資源冊子のご紹介

これまでに指定した「ここに残る景観資源」について、テーマごとに取りまとめた冊子を、各施設にて配布しています。



ここに残る景観資源発掘プロジェクト

ここに残る樹木景観

岸和田市

目次

- P.02 ここに残る樹木景観マップ
- P.03 ここに残る樹木景観
- P.07 ここに残る樹木景観応募者エピソード集
- P.09 岸和田市景観重要樹木
- P.11 ここに残る景観資源 これまでの指定資源一覧
- P.12 プロジェクトの系譜

ここに残る景観資源発掘プロジェクト

ここに残るみち景観

岸和田市

目次

- P.02 ここに残るみち景観マップ
- P.03 ここに残るみち景観
- P.08 ここに残るみち景観応募者エピソード集
- P.11 ここに残る景観資源 これまでの指定資源一覧
- P.12 プロジェクトの系譜

平成24、25年実施
応募件数111、指定数15

平成26、27年実施
応募件数83、指定数21

ここに残る景観資源発掘プロジェクト

ここに残る水辺景観

岸和田市

目次

- P.02 ここに残る水辺景観マップ
- P.03 ここに残る水辺景観
- P.07 ここに残る水辺景観応募者エピソード集
- P.09 Landscape resources remaining in the mind
- P.10 ここに残る景観を巡る旅〜ちきりwalk〜
- P.11 ここに残る景観資源 これまでの指定資源一覧
- P.12 プロジェクトの系譜

岸和田市 景観 MODE

伝えたい つなぎたい こころの木

岸和田市景観重要樹木

奥家の棕
〔南阿波町〕

塔原町のサクラ
〔南阿波町〕

吉井町のエノキ
〔南阿波町〕

岸和田市では、人々に愛され愛されてきた樹木で、特に地域の景観にとって重要な存在となっている「奥家の棕」「塔原町のサクラ」「吉井町のエノキ」の3本を、大正時代から昭和時代にかけて、景観に貢献した樹木として指定しました。これら3本の樹木は、地域の歴史や文化を伝える重要な存在であり、これからも地域の景観を豊かにする役割を果たすことを期待しています。

平成28、29年実施
応募件数119、指定数15

景観重要樹木冊子
平成30年3月作成
奥家の棕、塔原町のサクラ、
吉井町のエノキ

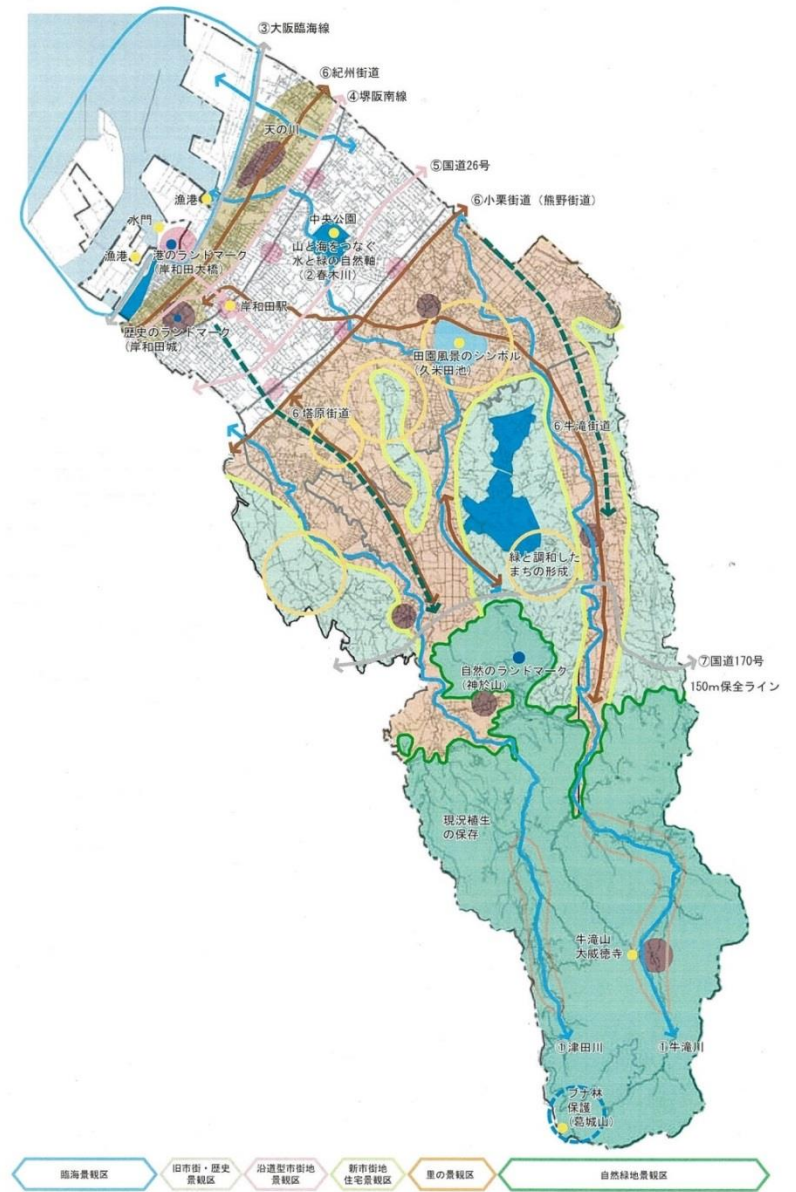
プロジェクトの系譜

岸和田市景観計画

岸和田市景観計画は、恵まれた自然・歴史・文化資産を活かし、岸和田市にふさわしい風格ある景観づくりに努めることで、更に岸和田らしい魅力あふれた快適なまちとして、これを次代の市民、事業者を引き継いでいくことを目的に策定しています。

景観形成の基本目標である『豊かな自然環境と歴史的環境が織り成す「個性的快適環境都市」の創生』を実現するためには、市民、事業者、行政が総合的かつ多面的にお互いの立場を理解しながら協力し、優れた景観をまもり、はぐくみ、つくりだし、次の世代へつないでいく必要があります。

基本景観区	主な土地利用
臨海景観区	工業、港湾
旧市街・歴史景観区	住宅、商業
沿道型市街地景観区	住宅、商業、工業
新市街地住宅景観区	住宅、商業
里の景観区	農地、樹林地
自然緑地景観区	樹林地



ここに残る景観資源発掘プロジェクト

ここに残る景観資源発掘プロジェクトは、地域の景観の核となる資源を発掘し、その情報を蓄積、共有していくことで地域の魅力を高め、郷土への愛着や誇りの醸成と地域価値の向上に寄与するなどの効果を創出する事を目的として平成24年度よりプロジェクトを実施しています。

【指定状況（2022年3月現在）】

樹木景観15件、みち景観21件、水辺景観15件、まち景観19件、ひとの営み景観10件、眺望9件】



まちかど審査の様子

プロジェクトの流れ



「未来へつむぐ物語」

「景観十年・風景百年・風土千年」と言われるように、私たちの日々の営みが、いつか時を経て、風土としてその土地に息づくことを想定しながら、「未来につなぐ」景観形成に取り組むことが重要だと考えられます。

これまで、優れた景観形成に寄与する地域の人々に大切に守られてきた「樹木」「みち」「水辺」「まち」「ひとの営み」について景観資源を発掘し、その情報を蓄積、共有に努めています。

「ここに残る景観資源発掘プロジェクト」の詳しい内容は岸和田市ホームページからご覧いただけます。

岸和田市ここに残る景観資源

検索



ここに残る景観資源発掘プロジェクトはこちら

問合せ先：岸和田市まちづくり推進部都市計画課 景観担当

〒596-8510 岸和田市岸城町7-1 ☎072-423-9538(直通)

